

BCG 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

たんの中に結核菌を出している患者が、咳・くしゃみをした時に、菌が空気中に飛び散り、これを吸い込むことによって感染します。結核菌が身体の中に入っても、大部分の人はすぐには発病しません。過労や病気などで抵抗力が弱ってくると発病することがあります。乳幼児が、大量の菌を一度に吸い込むと、肺だけでなく全身の結核にかかったり、重い後遺症を残したりすることもあります。

結核は、以前より大幅に減少したものの決して過去の病気ではありません。依然として、わが国最大の感染症です。

【どんなワクチン？】

BCG は牛型結核菌を弱毒化してつくった生ワクチンです。

結核菌に対する抵抗力(免疫)をつけるために BCG 接種をおこないます。一度接種すれば効果は 10～15 年程度続くと考えられており、特に、小児における重篤な髄膜炎や全身性の結核の発症を 64～78% 予防するといわれています。

BCG 接種は、BCG ワクチンをスポイドで 1 滴、腕におとし、スタンプ方式で 2 か所に押しつけるように接種します。接種したあとは、手や服が触れないように注意し、出血をふきとったり、もんだりしないでください。必ず自然に乾くの待って(約 10～15 分)、担当看護師が乾いたことを確認してから、服を着せてください。

【副反応は？】

BCG 接種後の 10 日～2 週間で針のあとが赤く膨らみ、接種後 4～5 週間目に最も赤くなります。膿をもったり、浸出液が出る(ジクジクする)ことがあります。針のあとをこすったり、絆創膏を貼ったりせずに清潔に保ってください。接種後 2～3 か月で針の後がかさぶたになり、かさぶたが取れてあとが残ります。針のあとの赤みは少しずつ薄くなり、接種後 1 年くらいで目立たなくなります。

副反応としては、1%以下の割合で、接種後 4～6 週間目に接種した側のわきのリンパ節が腫れる(グリグリができる)ことがあります。通常は自然に治るのでそのまま様子を見てかまいません。再接種後の場合、これらの反応が強くなる場合があります。3 cm以上の大きさに腫れたり、化膿して自然にやぶれて膿が出たときは、ご相談ください。

【その他】

〈コッホ現象〉

BCG 接種後、通常よりも早い時期(10 日以内、多くは 2～3 日後)に、接種した場所が赤くはつきり腫れたり、針のあとが膿をもつことがあります。ふつう、2～4 週間で腫れなどはおさまり、自然になおりますが、これをコッホ現象といいます。この現象は、既に結核に感染している児が BCG 接種を受けた場合にみられる反応です。一般に 0.04%程度の乳児が感染を受けている可能性(結核既感染率)があるといわれています。

コッホ現象と思われる反応がみられた場合には、結核感染の確認のための検査を行う必要がありますので、必ず、速やかに当センターにご連絡ください。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

当センターでは定期接種の取り扱いがないため、有料となります。なお、当センターでは、1 歳を超えた場合(成人含む)、ツベルクリン反応検査※1 の判定後に BCG 接種を行っています。

予防接種名	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	当センター接種料金
BCG(結核) ※2	生後 1 歳に至るまで	生後 5 から 8 か月	1 回	¥5,000

※1 結核菌培養ろ液から精製した抗原を皮内投与し、48 時間後に接種部位の発赤などを測定し感染を診断する検査で、結果が陰性の場合のみ BCG 接種を行います。

※2 平成 25 年 4 月から BCG の対象年齢・標準的な年齢が変わりました。

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
 - (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。（成人で母子健康手帳のない場合は結構です。）
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予約票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹（治ってから4週間程度）	風しん、水痘、おたふくかぜ（治ってから2~4週間程度）
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑（治ってから1~2週間程度）	普通感冒や上気道炎（治ってから1週間程度）

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人（明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が37.5℃以上を指します。）
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある人。
- (4) BCG接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもらってからご来院ください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後2日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間（症状が出ない期間）中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと30分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (4) 高熱、おう吐、けいれん（ひきつけ）など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため27日以上間隔をあけてください。不活化ワクチン接種の場合は、約1週間経てばワクチンによる反応がなくなるため6日以上間隔をあけてください。

予防接種の種類	間隔
【生ワクチン】 結核(BCG) 麻疹風しん混合(MR) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 水痘(みずぼうそう) ロタウイルス(1価・5価) 黄熱	27日以上の間隔をあける
【不活化ワクチン】 4種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2種混合(ジフテリア・破傷風) 破傷風 ポリオ 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌b型) 肺炎球菌(13価・23価) HPV(ヒトパピローマウイルス) インフルエンザ A型肝炎 B型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌	6日以上の間隔をあける

同時に複数の種類のワクチンを接種後に他の種類のワクチンを接種する場合も上記表のとおりです。なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。